

東邦ホールディングス

# CSR報告書

TOHO HOLDINGS CSR REPORT

## 2018

ひとりひとりの  
エコアクト



共創未来

東邦ホールディングス株式会社



# 目次

## [会社概要]

### 3社の概要/財務データ(連結) /年表 ..... 3

## [トップメッセージ]

### だれもが安心して暮らせるように、医療のさらなる発展に力を尽くします ..... 4

## [事業概要]

### 医薬品の卸売事業と製造販売事業、および調剤薬局事業を展開しています

- 医薬品と「顧客支援システム」を通じて、みなさまに「安全と安心」をお届けしています ..... 6
- 物流センターとコールセンターを連携させて、「営業と物流の一体改革」を進めています ..... 8
- 独自の「顧客支援システム」を開発して、患者さまと医療機関をサポートしています ..... 10
- ジェネリック医薬品の製造・販売に取り組み、その安定供給に努めています ..... 12

## [活動報告]

### 「全ては健康を願う人々のために」を掲げて、CSR活動に取り組んでいます

CSR活動は「グループスローガン」と「中期経営計画」に基づいて進めています ..... 14

- ① 環境のために 社員ひとりひとりが自覚を持って、エコアクトに取り組んでいます ..... 15
- ② 患者さまのために みなさまの健康をサポートできるように、日々サービスを進化させています ..... 18
- ③ 顧客のために 医療におけるさまざまな業務を支援するシステムを開発・提案しています ..... 20
- ④ 社員のために 福利厚生や研修の制度を整えて、いきいきと働ける職場をつくっています ..... 22
- ⑤ 地域社会のために わたしたちの暮らす町をよりよくするために、さまざまな活動を行っています ..... 24
- ⑥ 株主のために 企業としてさらに成長していけるように、経営体制の強化に努めています ..... 26

## 編集方針

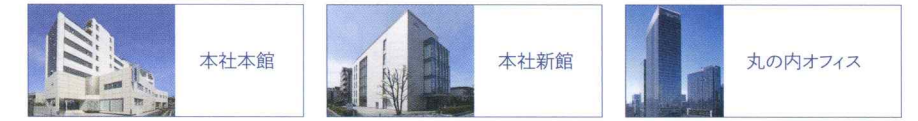
東邦ホールディングスは、医療と健康に貢献することを目的とする事業体として企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)を果たすべく、さまざまな取り組みを積み重ねています。このCSR活動の内容と今後の方向性をステークホルダーのみなさまにご報告するために、2008年度より「CSR報告書」を作成しています。

株主や投資家の方々はもちろんのこと、広く患者さまや顧客のみならず、地域社会のみならず、さらに社員をも加えて、わたしたちの事業に深くかかわるステークホルダーとしてご報告の対象としました。

# 会社概要

## 3社の概要

会社名	東邦ホールディングス株式会社
本社所在地	〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1
電話番号	03-3419-7811(代表)
丸の内オフィス	〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 13F
設立	1948年(昭和23年)9月17日
資本金	106億49百万円 (2018年3月末)
株式	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード: 8129)
代表者	代表取締役会長 CEO 濱田 矩男 代表取締役社長 加藤 勝哉
従業員数	7,849人(連結) (2018年3月末)

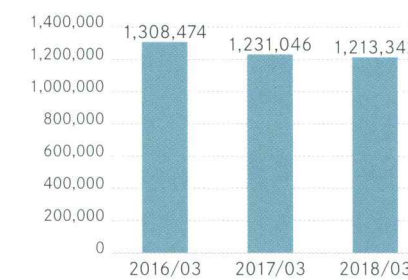


会社名	東邦薬品株式会社
本社所在地	〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1
電話番号	03-3419-7811(代表)
丸の内オフィス	〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 10F, 12F, 13F
設立	2008年(平成20年)11月4日
資本金	3億円 (2018年3月末)
代表者	代表取締役社長 枝廣 弘巳 代表取締役副社長 有働 敦
事業内容	医療用医薬品、検査薬などの卸売

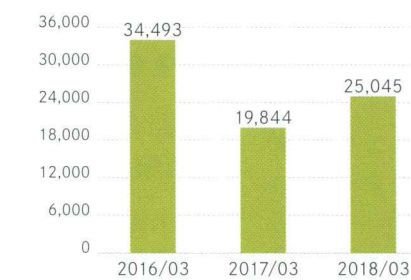
会社名	ファーマクラスター株式会社
本社所在地	〒100-6610 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 10F
電話番号	03-6838-2853(代表)
設立	2008年(平成20年)12月24日
資本金	10百万円 (2018年3月末)
代表者	代表取締役社長 佃 敏之 代表取締役副社長 野村 卓三
事業内容	調剤薬局事業の管理

## 財務データ(連結)

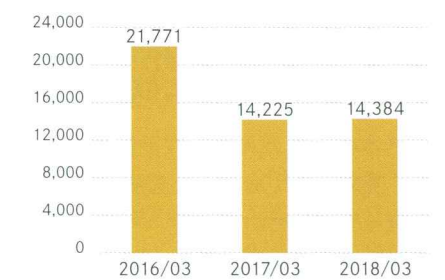
売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



当期純利益(単位:百万円)



## 年表(2018年)

- 6月12日 ファルマニアーク(本社:マレーシア)と、マレーシア、インドネシアおよび日本での業務提携について合意
- 7月24日 (株)スズケン(本社:愛知県)と「顧客支援システム等の共同利用に関する基本合意書」を締結
- 9月1日 山口県、広島県、福岡県、大分県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の子会社7社を(株)セイエル、九州東邦(株)、沖縄東邦(株)に再編
- 10月1日 東邦薬品(株)が協栄薬品(株)(本社:富山市)を完全子会社化。名称を北陸東邦(株)に変更
- 10月1日 富士フィルムファーマ(株)(本社:東京都)からジェネリック医薬品の製造販売承認の承継と販売移管を開始
- 11月5日 「TBC広島」(広島県広島市)が稼働

## 対象組織

報告の対象は東邦ホールディングスの連結会社についてです(非連結の子会社の一部も含まれます)。これらを文中では「東邦ホールディングス」と表記し、事業持株会社である「東邦ホールディングス(株)」と区別しました。なお、東邦ホールディングス内の特定の会社の取り組みを報告する場合は、次のように会社名を表記しています。

- 東邦ホールディングス(株) ..... 事業持株会社
- 東邦薬品(株) ..... 医薬品卸売事業運営会社
- ファーマクラスター(株) ..... 調剤薬局事業管理会社
- 共創未来ファーマ(株) ..... 医療用医薬品の開発・製造・販売会社

## 対象期間

2017年度(2017年4月1日~2018年3月31日)一部、当該期間外の取り組みも含まれています

## 発行

2019年3月(次回発行は2019年11月予定)

## 注記

- 1:文中の数値は端数を切り捨て処理しています
- 2:「病院」は病床数20床以上、「クリニック(診療所)」は19床以下の医療機関を指します

# だれもが安心して暮らせるように、 医療のさらなる発展に力を尽くします

医療業界ひいては社会全体が大きな転換期を迎えています。

みなさまの健康をサポートする企業として果たすべき責務とはなにか。

弊社代表が前年度のおもな取り組みと今後の目標を申し述べます。

当社グループは、1948年に東邦薬品として創業し、2018年に70周年を迎えました。長く事業を続けてこられたのは、ひとえにみなさまのご支援のおかげでございます。心より厚くお礼申し上げます。

## 医療にたずさわる一員として、 医療の課題に真摯に取り組みます

日本のすぐれた医療保険制度をこれからのように維持し、充実させていくか。医療業界全体でさまざまな取り組みを行っています。

2018年1月には、厚生労働省が「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」を発表しました。医薬品卸各社は、医薬品の価値を踏まえた価格交渉などの課題に真摯に取り組んでいます。そのうえで当社グループでは、とくに配送回数を適正化する活動に力を入れており、着実に成果が現われています。また、自動音声認識を導入した「コールセンター」や高度に自動化させた「物流センター」によって、受注や物流の機能を強化し、効率も向上しています。

わたしたちは、病院やクリニック、調剤薬局の業務をサポートするため、また、患者さまの利便性を高めるために、独自の「顧客支援システム」の開発・提案も進めています。このような取り組みは付加価値提供型ビジネスモデルとして当社の独自性につながっています。

ジェネリック医薬品の普及がますます求められているなかで、子会社の共創未来ファーマ(株)は、高品質・高付加価値のジェネリック医薬品を提供し、順調にラインナップを増やしています。

こうした活動の結果、2018年3月期の決算は、売上高はC型肝炎治療薬市場の縮小の影響を大きく受けて、前期比98.6%でしたが、営業利益は133.5%、経常利益は126.2%、純利益は101.1%と、前年度を上回る利益を出すことがで

きました。

2018年10月には、北陸エリアにおいて北陸東邦(株)(本社:富山市)を発足させて、47都道府県すべてに当社グループの流通網が行きわたりました。今後も市場環境が急速に変化すると想定されますが、引き続きさまざまな努力を続けてまいります。

## 「顧客支援システム」を通して 医療サービスの充実に寄与します

わたしたちは、「顧客支援システム」によって頻回配送と急配の問題の解決をめざしています。2018年2月から当社グループの調剤薬局で、レセプトコンピュータの処方データに基づく「ENIF本部」の自動発注機能を活用して、「NO検品システム」とも組み合わせることで週1回配送に挑戦しています。調剤薬局からは、「発注業務に追われることがなくなった」「検品、入庫、棚入れの回数が減って、患者さまと向き合う時間が増えた」という声が上がっています。

「地域医療」の重要性が高まるなかで、「ENIFme(エニフミー)」の提案にも取り組んでいます。調剤薬局やクリニックが患者さまごとに必要な医療材料を1個口から購入できるので、多種多様な医療材料を必要とする在宅医療において評価されています。訪問看護ステーションには「エニフナース」を提案しています。訪問看護師が自動音声認識を使って看護記録を作成できるので、記録作成業務の負担が軽減され、看護の質の向上にもつながります。

このほかにも日々新しいシステムの開発に取り組んでいます。2018年は、レセプトコンピュータと電子薬歴・自動音声認識を搭載し、一体型でクラウドによるデータ管理に対応した「ENIFvoice Core(エニフボイス コア)」と、レセプトコンピュータとの連動型POSシステムの「Core-POS(コアポス)」を新発売しました。

## 「TBC広島」と「総合物流センター」を新設し、 「営業と物流の一体改革」を推進します

わたしたちの流通業務の基盤となるのが、全国の物流センター(TBC)です。

各TBCでは、ロット管理によってトレーサビリティを実現するとともに、保冷品自動倉庫によって温度管理を徹底しています。

また、最先端の技術を取り入れて「セブン9(99.99999%)」という高い出荷精度をめざしています。「TBC埼玉」では、ロボットを導入することで、他の物流センターに先がけて「セブン9」(99.999991%)を達成しました。

2018年11月には広島県広島市で「TBC広島」を稼働させました。「TBC埼玉」で培った自動化の技術をさらに発展させて、入荷から出荷までの工程を省力化することが可能になりました。ロボットによる自動ピッキングの対象品目も大幅に増えて、自動ピッキングの割合をピッキング作業全体の9割にすることをめざしています。

東京都大田区に建設中の「総合物流センター」は、2020年の稼働をめざして準備を進めています。この「総合物流センター」は、東京都が災害時広域輸送基地に指定している京浜トラックターミナル「ダイナベース」内にあります。ここに、首都圏の物流と配送を再構築し、機能強化をはかる予定です。災害リスクの高い首都圏において、災害が起こったときでも中断することなく医薬品を供給する体制を作り上げていきます。

こうした物流体制は営業部門との連携がとれてこそ効果を発揮します。「営業と物流の一体改革」を合言葉に、さまざまな施策を進めています。

東邦ホールディングス株式会社  
代表取締役会長 CEO

濱田 矩男



## 高品質のジェネリック医薬品を製造し、 安定供給を継続していきます

高品質のジェネリック医薬品を確実に、かつ安定的にお届けしたいという思いから、2016年11月に共創未来ファーマ(株)を発足しました。独自の品質検証を行うことで質の高いジェネリック医薬品を安定供給しています。順次品目数も増やしています。

わたしたちの卸売事業のMS(マーケティング・スペシャリスト)は、病院やクリニック、調剤薬局のみならず日々お会いして、共創未来ファーマ(株)の製品についての最新情報をお伝えしています。このような取り組みを通じてジェネリック医薬品の信頼性を高めてまいります。

## 「ひとりひとりのエコアクト」を心がけて 環境の保全に貢献します

環境問題は現代社会の大きな課題であり、それぞれの企業が改善に向けて努力することが求められています。

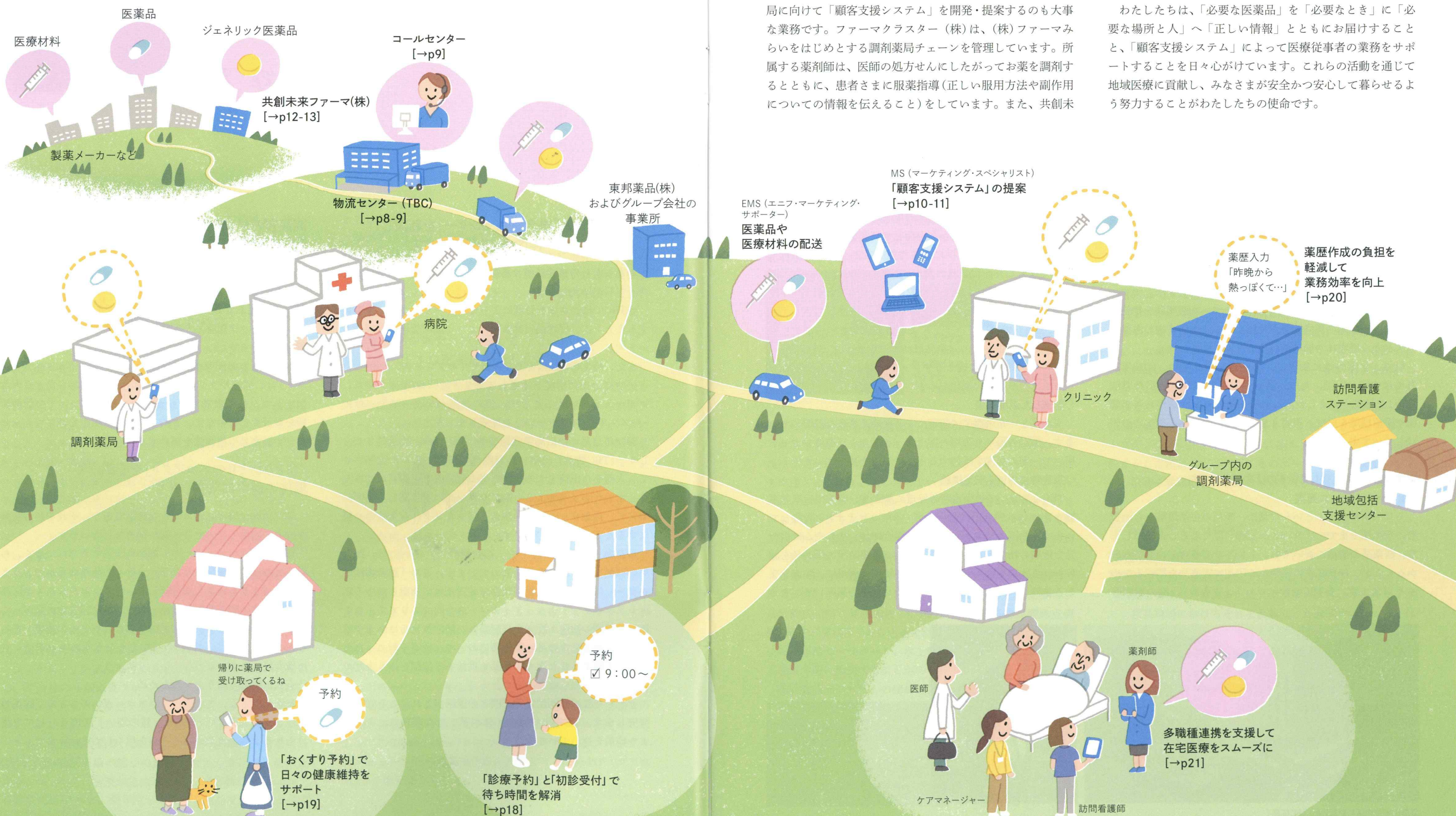
建物や設備の省エネルギー効率を改善するだけでなく、わたしたちは、社員ひとりひとりが日々の仕事のなかでよりよい環境づくりをめざして行動しています。わたしたちの医薬品卸売事業と調剤薬局事業は、事業所が全国各地に広がっていることが特徴です。地域に深く根ざしてこそその企業であることを肝に銘じて、今後も、「ひとりひとりのエコアクト」に取り組めます。

「全ては健康を願う人々のために」

わたしたちは、このグループスローガンのもとに、国民のみなさまが「安全で・安心で・質の高い」医療サービスを受けられるよう、よりいっそう力を尽くしてまいります。

医薬品の卸売事業と製造販売事業、  
および調剤薬局事業を展開しています

わたしたちはこの3つの事業を中核として、  
日本全国で業務を遂行しています。



## 医薬品と「顧客支援システム」を通じて、 みなさまに「安全と安心」をお届けしています

東邦薬品(株)およびグループ会社が、医薬品や医療材料の販売・配送を担当しています。病院やクリニック、調剤薬局に向けて「顧客支援システム」を開発・提案するのも大事な業務です。ファーマクラスター(株)は、(株)ファーマみらいをはじめとする調剤薬局チェーンを管理しています。所属する薬剤師は、医師の処方せんにしたがってお薬を調剤するとともに、患者さまに服薬指導(正しい服用方法や副作用についての情報を伝えること)をしています。また、共創未

来ファーマ(株)は、ジェネリック医薬品を製造・販売しています。

わたしたちは、「必要な医薬品」を「必要なとき」に「必要な場所と人」へ「正しい情報」とともにお届けすることと、「顧客支援システム」によって医療従事者の業務をサポートすることを日々心がけています。これらの活動を通じて地域医療に貢献し、みなさまが安全かつ安心して暮らせるよう努力することがわたしたちの使命です。

# 物流センターとコールセンターを連携させて、「営業と物流の一体改革」を進めています

わたしたちは、物流センターとコールセンターの機能を充実させ、「お客さまの満足度の向上」と「グループ全体の生産性向上」をはかっています。2018年は「TBC広島」を稼働させ、「総合物流センター」の建設も進めています。

## 物流センター

### 「安全・安心」は医薬品流通の原点です

医療用医薬品は、患者さまの命や健康に直結します。だからこそ、みなさまが必要なときに、必要な場所へ、必要な量を確実にお届けしなければなりません。「安全・安心の医薬品流通」を実現することは、わたしたちの使命です。この流通網の中心となっているのは、「物流センター(TBC)」です。TBCとは、Toho Butsuryu Centerの略です。

当社グループの最初の物流センターは、1988年に東京都大田区平和島に開設した「東京ブロック流通センター」です。従来、東京エリアの各事業所で保管していた医薬品を集約できたことで在庫の集中管理が可能になり、多種多様の医薬品を欠品なく確実にお届けできるようになりました。

以降、全国各地に物流センターの建設を進め、2018年11月には中国、四国、九州へ供給する「TBC広島」(広島県広島市)を稼働させました。これらの物流センターから各事業所や医療機関を経て、患者さまのもとへ医薬品を確実にお届けしています。

### 物流センターで重視しているのは次の4つです

#### ◇トレーサビリティの充実

トレーサビリティという言葉は、製品の生産段階から消費者の手に届くまでのプロセスが追跡可能であることを指します。医薬品の流通においても、トレーサビリティの充実をはかることが、みなさまに正確かつ迅速に医薬品を届けるために不可欠です。各TBCでは、ロット(製造番号)別の在庫管

理システムを導入し、流通過程のすべての段階でそれぞれの医薬品がどこにあるかを確認できるようになっています。

#### ◇出荷精度の向上

各TBCでは、医薬品の入荷から出荷までの全工程でバーコードチェックを行って、誤出荷の防止に努めています。

バーコードチェックのほかにも、出荷精度を上げるために各TBCで最新のシステムを積極的に導入しています。

「TBC埼玉」では、入荷から出荷までに3種類のロボットを計20台使うことで、人手による作業を12工程から5工程に削減できました。従業員の数も同規模のTBCにくらべて130名減り、一人あたりの生産性は2倍になりました。出荷精度は全TBCのなかで最高の「99.999991%」に達しています。「TBC広島」では、ロボットによる自動化をさらに進化させました。ピッキングの対象品目は、「TBC埼玉」が約2,500なのに対し、約7,000に達します。ピース品(包装単位商品)ピッキングの9割の自動化をめざしています。

#### ◇徹底した温度管理

医薬品を一定の温度で管理できる保冷品倉庫を設置しています。配送の際にも専用の保冷ボックスおよび温度ロガーを用いて一定の温度を維持するように注意を払っています。

#### ◇災害時における安定供給

TBCと営業所では災害時の停電に備えて、非常用自家発電機または自社開発の代替保冷库(保冷コンテナ)を設置しています。物流センターが被災した場合には、すみやかに供給元を近隣の物流センターに切り替え、各事業所に医薬品を届けられる体制を整えています。情報管理の面では、物流を支える基幹システムを東京のデータセンターで運用しています



広島市安佐南区に新設した「TBC広島」



「TBC広島」のピース品(包装単位商品)ピッキングロボット。「TBC埼玉」のものより小型化、省電力化された

が、同時に大阪のデータセンターでもバックアップし、常にデータの同期をとり、災害が起きた場合には切り替えが可能なシステムを構築しています。さらに年数回、災害対策訓練を全社規模で実施しています。2017年から2018年にかけて、九州北部や西日本で豪雨、北海道で大地震がありました。物流体制に大きな被害はなく、滞りなく業務を続けることができました。

### スペシャリティ医薬品の流通を任されています

特別な製品管理、トレーサビリティを必要とする「スペシャリティ医薬品」は新薬の主流になるといわれています。必要とする患者さまの人数が限られるため、製薬会社は廃棄コストや流通コストを重視し、緻密な計画を立てて製造しています。当社グループでは、高い出荷精度と温度管理によって廃棄コストを抑制し、全国のデータが集約された基幹システムによって、流通コストも抑制します。災害に強い点も評価されて、スペシャリティ医薬品の流通を任されるケースが増えてきました。TBCから病院やクリニックに搬送し、そのまま保管しておく小型の電子冷却式搬送装置「サルム」を用い、厳密な温度管理を要求されるスペシャリティ医薬品の搬送に力を発揮しています。



電子冷却式搬送装置「サルム」(左は本体)。内部電池と外部電源の両方で使用可能。蓋を開けるなどで庫内温度が変わったときはアラームが鳴る。庫内温度は連続1か月以上記録され、データで管理できる

### 物流センターのさらなる進化をめざしています

東京都では、大震災時に人命救助や消火活動のために、大規模な交通規制が実施されます。このときに安定的に医薬品を流通させるにはどうしたらよいか。この課題を解決するために、わたしたちは、都の災害時広域輸送基地に指定されている京浜トラックターミナル「ダイナベース」(東京都大田区)の中に「総合物流センター」を構築する予定です。2020年の稼働をめざして準備を進めています。

この「総合物流センター」は、災害時に外部からの車両の流入が規制される環状7号線より内側に位置することから、基幹的広域防災拠点施設(有明の丘)、広域基幹災害拠点病院(都立広尾病院)にも迅速に医薬品を供給できます。周囲には災害時のヘリポート、水上輸送基地が複数あり、空路、水路も十分に確保することができます。

「総合物流センター」の稼働を契機に、首都圏の物流と配送



首都圏に新設する「総合物流センター」の完成イメージ

の再構築をしていきます。現在、TBCから直接医療機関に医薬品を納品する「センター直送便システム」と、医療機関で医薬品の検品をせずにすむ「NO検品システム」の導入を進めています。が、「総合物流センター」の稼働によって、この2つのシステムの提供エリアは、よりいっそう拡大される予定です。

## コールセンター

### 迅速かつ的確にお問い合わせに対応しています

最初のコールセンターは、2000年7月に東京の東邦薬品(株)本社に開設されました(現・東京コールセンター)。2013年10月には「TBC札幌」に札幌コールセンターが、2014年2月には兵庫県の「TBC阪神」に西日本コールセンターが開設されています。コールセンターで営業所やTBCのリアルタイムの在庫状況を把握できることにより、お客さまにすばやく的確にお答えできるようになりました。2018年3月末現在、オペレーター総数は東京・札幌・西日本コールセンター合わせて117名、電話の処理本数はひと月に約10万2,520本です。

### 専門性の高いご質問には二次オペレーターが対応します

電話の70%は医薬品の注文です。自動音声認識システムも活用してその場で在庫の有無と納期をお答えすることができます。また医薬品の安全性や詳細情報についての問い合わせには薬剤師が対応し、「顧客支援システム」への問い合わせには、専門研修を受けたオペレーターが対応します。こうした二次オペレーターを置くことによって、お客さまにとってワンコールで通話が完了します。「e健康ショップ」「ENIFme(エニフミー)」など多くの専用問い合わせ窓口(ヘルプデスク)も併設しています。窓口をコールセンターに集約することによって、お客さまのニーズを広く把握し、システム改善や業務改善に役立てています。

## 営業と物流の一体改革

### 「お客さまの満足度向上」と

### 「グループ全体の生産性向上」をめざしています

「営業と物流の一体改革」は、物流センター、コールセンター、営業現場におけるそれぞれ独立した改革ではなく、一体化した改革です。改革の速度を合わせていくことで相乗効果を発揮させ、お客さまの満足度向上とグループ全体の生産性向上の両方を実現することをめざしています。同時にグループ全体でのコスト削減も実現し、グループの「全体最適化」につなげていきます。生産性が向上した営業現場では、医療機関や患者さまの課題を解決する「顧客支援システム」の提案にさらに注力していくことができます。

# 独自の「顧客支援システム」を開発して、患者さまと医療機関をサポートしています

わたしたちは、患者さまや医療機関で働くみなさまのお役に立てるように、独自の「顧客支援システム」を開発し、提案しています。顧客支援システムを始めた経緯とともに現在の代表的なシステムをご紹介します。

## 「健康を願う全てのみなさまを幸せにしたい」が原点です

わたしたちは、医療環境の整備に寄与するために、さまざまな「顧客支援システム」を開発し、全国の医療機関に提案しています。

開発の発端は1990年代初頭にさかのぼります。MS（マーケティング・スペシャリスト）が病院やクリニックを訪問すると、早朝から患者さまが並んでいるのを見かけました。体調が悪いときは、だれもが少しでも早く診察を受けて、早く薬を受け取りたいと思うはず。患者さまの待ち時間をどうすれば解消できるか。キーワードは「予約」です。わたしたちは「自宅から電話で予約できれば、待たなくてすむ」を開発コンセプトにして、1995年に「LXMATE（エルエクスマイト）」を完成させ、専用の端末を病院やクリニックに販売しました。患者さまは、電話の音声ガイドに従って、簡単に診察日時を予約できるようになりました。

また、医療に従事する方々からは、「医薬品をもっと簡単に発注したい」「在庫管理の効率化をはかりたい」といった声を耳にしました。わたしたちは、そのご要望を受けて医薬品の発注業務に注目し、1997年に高機能の情報端末「ENIF（エニフ）」を開発しました。端末で商品のバーコードを読み取り、注文数を入力して送信すれば、簡単に発注することができます。「在庫の有無」「納品日程」などの情報もすぐに返信されます。電話やFAXによる従来の発注方式にくらべると、時間が短縮されるだけでなく、発注と納品のミス減少にもつながりました。

みなさまの思いや声に応える仕組みを医療機関に提供することができれば、その医療機関は患者さまへより良質な医療サービスを提供することができて、医療機関も患者さまも満足していただけるはず。健康を願う全てのみなさまが幸せになる仕組みをつくりたい。これが「顧客支援システム」の原点です。

## システムを日々進化させること。提案の質を高めること。この2つに熱意を込めて取り組んでいます

わたしたちは、システムを導入していただいた後も、継続的に最大限に活用していただくことをめざしています。そのために、重視していることが2つあります。

ひとつは、常にみなさまのニーズに耳を傾け、システムを

進化させていくことです。地域の医療機関に足を運んでいるMSが、みなさまからご要望をうかがい、開発部門へフィードバックしています。

もうひとつは、提案の質を高めることです。MSを対象にした「MTP（Medical Total Planner）研修」を実施し、MSがよりいっそうシステムに習熟して、きめこまやかな提案ができるように努めています。

## さまざまな「顧客支援システム」を提案しています

### ◇診療予約システム

#### 「LXMATE HeLios（ヘリオス）」

「LXMATE」の後継機種として2000年にリリースしました。患者さまは診療日時を予約できるため、待ち時間が少なくなり、診療前後の予定も立てやすくなります。2007年にはインターネット専用の「SELENE（セレネ）」を、2011年には「LXMATE HeLiosインターネット簡易版」をリリースしました。以上、医療機関のご要望に合わせた3つのタイプを取り揃えています。



「LXMATE HeLiosインターネット簡易版」

### ◇医薬品発注・情報端末機

#### 「ENIF」

医薬品を発注するための情報端末です。1997年にリリースしました。

1998年には、「ENIF」のユーザーに向けて「ENIFclub（エニフクラブ）」を設立しました。必要な医薬品をシート単位で必要な量だけ購入できる「分割販売」や、煩雑な棚卸業務を効率よく実施できる「棚卸機能」など、薬局経営をサポートする各種サービスを提供しています。

情報端末についてもバージョンアップをはかり、2014年には「next-ENIF（ネクスト・エニフ）」をリリースしました。



「ENIF」 「next-ENIF」

### ◇医薬分業支援システム

#### 「ENIFファーマシー」

処方せん送信システムです。1998年にリリースしました。患者さまは病院やクリニックに設置された「ENIFファーマシー」から処方せんを調剤薬局にFAXすることで、長時間待たずに薬を受け取ることができます。



「ENIFファーマシー」

### ◇自動音声認識薬歴作成支援システム

#### 「ENIFvoice SP（エニフボイス エスピー）」

薬剤師の声を認識して自動的にテキスト化するシステムです。2010年にリリースしました。薬剤師の薬歴作成業務の時間短縮につながります。



「ENIFvoice SP」

### ◇自動音声認識・電子薬歴一体型システム

#### 「ENIFvoice SP+A（プラスエー）」

「ENIFvoice SP」に電子薬歴を付加したシステムです。2017年にリリースしました。薬剤師がいつもと違うパソコンや他の店舗でも作業をしやすいうちに、薬歴や音声認識辞書のデータをクラウド化しています。

### ◇自動音声認識・電子薬歴一体型レセプトコンピュータ

#### 「ENIFvoice Core（コア）」

「ENIFvoice SP+A」を搭載したレセプトコンピュータです。2018年にリリースしました。患者データや薬歴データを店舗間で共有できるクラウド型のため、薬剤師の利便性が向上し、災害時にも迅速な対応が可能になります。



「ENIFvoice Core」

### ◇レセコン連動型POSレジ

#### 「Core-POS（コアポス）」

調剤の会計と、OTC医薬品や日用品の会計を同時に処理できるPOSレジです。2018年にリリースしました。



「Core-POS」

### ◇薬局業務一元管理システム

#### 「ENIF本部」

調剤薬局チェーンの本部が各店舗の売上や在庫を一元管理できるシステムです。2013年にリリースしました。データがリアルタイムに更新されるため、タイムリーに経営状況を把握できます。「Core-POS」と連動させれば、未収金の発生から入金までを本部で把握することができます。



「ENIF本部」

### ◇病院向け在庫管理システム

#### 「ENIFwin Nex-Sus（エニフウィン ネクサス）」

大型病院内で流通する医薬品や医療材料、検査薬、消耗品の在庫数を一元管理するシステムです。2010年にリリースしました。

### ◇医療材料分割販売

#### 「ENIFme（エニフミー）」

医療機関などが医療材料を包装単位より少ない単位で購入できるシステムです。2012年にリリースしました。

### ◇訪問看護師向け業務支援端末

#### 「エニフナース」

音声入力による訪問看護記録作成システムです。2016年にリリースしました。訪問看護師向けに特化した音声認識辞書「こえじ」を搭載しています。



「エニフナース」

### ◇OTC医薬品の薬局受取サービス

#### 「e健康ショップ」

OTC医薬品を予約して、調剤薬局で受け取ることができるウェブサイトです。2011年に立ち上げました。指定した調剤薬局で薬剤師の適正な指導のもとにOTC医薬品を購入できます。健康食品や介護用品などのさまざまな健康関連商品も販売しています。

### ◇医療機関検索サイト

#### 「病院なび」

患者さまが自分の症状にあった病院やクリニックを検索できるサイトです。2010年からは病院やクリニックのホームページを作成する「病院なびホームページサービス」も展開しています。

### ◇インターネット初診受付

#### 「初診受付サービス」

「病院なび」などの医療機関検索サイトや各医療機関のホームページから初診の受付をすることができるインターネット上のサービスです。2012年にリリースしました。

## これからも新しいニーズにお応えしていきます

医療制度改革などともない、顧客のみなさまの「困っていること」は変化していきます。わたしたちの目標は、常に新しいニーズに応えるべく、進化していくことです。これからも顧客のみなさまの立場に立って、システムを開発・提供し、最大限に活用していただくために最善を尽くします。

# ジェネリック医薬品の製造・販売に取り組み、その安定供給に努めています

わたしたちはジェネリック医薬品の供給体制をよりよいものにするために、ジェネリック医薬品の製造販売事業を展開しています。独自の品質検査や工夫をこらしたパッケージ開発などの特色をご紹介します。

## 「自信を持って品質の高い医薬品を提供したい」が原点です

増え続ける国民医療費を抑制するために、ジェネリック医薬品のさらなる使用拡大が求められています。国は2020年9月までにジェネリック医薬品の数量シェアを80%にすると定めており、2018年9月時点で72.6%に達しています。

しかし、ジェネリック医薬品が普及する一方で、あらたな混乱や不安が生まれています。同じ成分の薬に対して数十社のメーカーがジェネリック医薬品を発売することがあるため、医師や薬剤師のみなさまからは「どれを選べばよいか判断に迷う」という声をよく聞きます。また、製造量が少なく安定供給されなかったり、発売されたものの数年で発売中止になったりすることもあり、調剤薬局にとっては仕入れや在庫管理がむずかしいという声もあがっています。販売される製品は厚生労働省の品質基準をクリアしており、品質は向上しているとはいえ、患者さまのあいだには品質に対する不安も根強く残っています。

こうした混乱や不安があるなかで、医薬品卸売事業を営むわたしたちも何かお役に立ちたい。自信をもって品質の高いジェネリック医薬品を安定供給したいと考えようになりました。さまざまな検討を重ねた結果、2016年11月にジェネリック医薬品の製造・販売を行う共創未来ファーマ(株)を発足しました。順調に製品数を増やしており、2019年3月には73成分156品目に達する予定です。

## 高品質の医薬品を供給するために厳しい検査を課しています

厚生労働省の基準をクリアした薬のなかでも、有効成分が体に吸収されていく度合いや安定性の数値にはばらつきが出ます。共創未来ファーマ(株)は、東京都品川区の自社工場内にある品質管理棟に精度の高い検査機器を導入し、厳しい基準を自らに課して、品質の向上に取り組んでいます。

## 「KMPパッケージ」で薬剤師の負担を軽減しています

KMPとは、KYOSOMIRAI PHARMAの略で、パッケージ(個装箱)に当社ならではの工夫をほどこしています(次ページ右下の写真参照)。箱の表面にさまざまな情報を記載して、中を開けなくても必要なことがわかるようにしています。こうした工夫は、卸売事業を通して医療機関のみなさまのニーズを把握している当社グループならではの強みといえます。

## 環境負荷の低減に取り組み、「ISO14001」を取得しています

工場では、製造過程でなるべく環境に負荷をかけないように心がけています。汚染物質をそのまま排出しないのはもちろんのこと、あらゆる面で省エネやリサイクルに取り

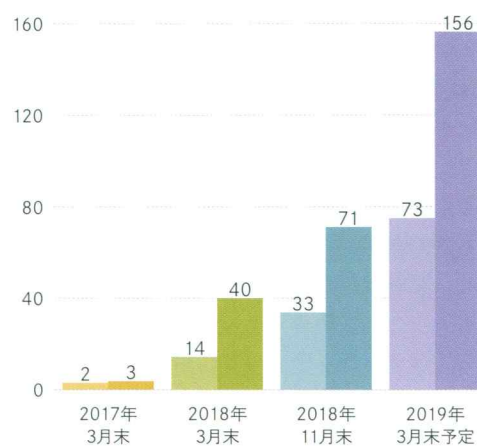


「ISO14001」更新の査察を受ける



共創未来ファーマ(株)の品川工場

製品数 左:成分数 右:品目数



採用病院数(200床以上) 院内採用施設のみ



組んでいます。やみくもに実行するだけでなく、実際に効果が出ているかどうかの点検に力を入れており、定期的に会議を開いてデータをチェックしています。環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証も取得しています。

## 市場のニーズを把握して安定供給を続けていきます

医薬品を提供するときはそれに付随した情報も医療機関へお伝えする必要があります。それはジェネリック医薬品であっても同じです。わたしたちの卸売事業のMSは、全国の病院やクリニック、調剤薬局を日々訪問して、医薬品についての新しい情報をお伝えしています。指導せん(患者さま向け説明

資料)を欲しいとリクエストされたときなどもすぐに担当部署にフィードバックします。グループ内に卸売事業と医薬品製造販売事業を持つ「製販一体型ビジネスモデル」ならではのスピーディな対応が可能です。

また、卸売事業と調剤薬局事業を持つことで、「いつどのくらいの数量が必要とされるか」という市場のニーズもつかみやすく、長期間にわたる安定供給が可能となります。これらの点が高く評価されて、2018年12月までに200床以上の病院の344施設において共創未来ファーマ(株)の製品が採用されています。これからも事業の拡大に向けてよりいっそう努力してまいります。

## 品質を高めるための設備と検査機器

### 天秤室



標準品や試薬の計量を行います。セミマイクロ天秤は0.00001g単位を測ることができます。

### 溶出試験機



有効成分が体内で溶けていくスピードをin vitro(試験管内)で調べます。

### 無菌試験用アイソレーター



無菌の環境を作り出します。医薬品の無菌試験に使用します。

## 「KMPパッケージ」の工夫



### 製品情報カード

ミシン目で切り離して薬剤師の製品情報カード(製品名、QRコード)として使用することができます。



### GS1コード

製品情報カードにGS1コード(流通のための国際的なコード)を印刷しています。

### QRコード

QRコードを読み取ることで、最新の添付文書(医薬品の使用者や医師、薬剤師向けの製品情報を記載した書面)を確認することができます。



## 新バーコード

変動情報(製造番号や使用期限)や販売包装単位などを確認することができます。



## 含量規格表示

他の含量規格も記載しています。この場合、1錠=30mgの錠剤も販売していることを示しています。



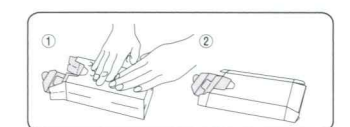
## 錠剤イメージ図

開封前に錠剤の概要を確認することができます。錠剤そのものには、片面ではなく両面に名称を入れて、なおかつ刻印ではなくプリントにすることで視認性を高めています。



## クラッシュ機能

廃棄するときに、両手で上から押すと簡単に潰れます。



「全ては健康を願う人々のために」を掲げて、CSR活動に取り組んでいます

「環境」「患者さま」「顧客」「社員」「地域社会」「株主」。6つの領域でCSR活動を進めています。2017年度の活動成果を領域別にご報告いたします。

## CSR活動は「グループスローガン」と「中期経営計画」に基づいて進めています

東邦ホールディングスは2009年4月、東邦薬品(株)のコーポレートスローガンを発展的に継承しました。

「全ては健康を願う人々のために」

このグループスローガンは、東邦ホールディングスのすべての事業活動がめざすべき目標です。

さらに、中期経営計画「全ては健康を願う人々のために」を実行してまいりました。医療を取りまく環境の急速な変化に対応しながら、医薬品流通のさらなる効率化をはかることを目的に策定されました。

CSR活動は、グループスローガンと中期経営計画に基づいて、「ひとりひとりのエコアクト」をCSRスローガンに掲げて進めています。

CSRスローガン  
ひとりひとりの  
エコアクト



### グループ理念

グループスローガン 全ては健康を願う人々のために

#### 経営理念

わたしたちは社会・顧客と共生し、独自のサービスの提供を通じて新しい価値を共創し、世界の人々の医療と健康に貢献します

#### 価値観 5つの「信頼と共感」

- |                |                                      |
|----------------|--------------------------------------|
| 1) 患者さまとの信頼と共感 | 常に患者さまを第一に考え、その満足度を高めるべく行動します        |
| 2) 顧客との信頼と共感   | 顧客にとってなくてはならない企業であるために日々ベストをつくします    |
| 3) 社員との信頼と共感   | 社員の個性や能力、チームワークを尊重し、自由闊達な企業風土を大切にします |
| 4) 社会との信頼と共感   | 法令と倫理を遵守し、社会との調和ある成長を目指し、その発展に貢献します  |
| 5) 株主との信頼と共感   | 企業価値の向上を追求し、適時適切な情報開示に努めます           |

#### 経営ビジョン

- 1) 独自の顧客価値創造によるコーポレートブランドの確立
- 2) ネットワーク型グループ経営の推進による強く柔軟な企業体質の確立
- 3) 人間起点経営(人間主義)とエンパワメント(権限委譲)の実践によるハイタッチな営業力の創出
- 4) 選択と集中による経営効率の追求、コスト削減の推進、事業構造の革新、キャッシュフロー重視の経営
- 5) 企業価値の向上と適時適切な情報開示
- 6) 内外の法令及びその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を実践



### 1 環境のために

## 社員ひとりひとりが自覚を持って、エコアクトに取り組んでいます

環境保全は現代社会の大きな課題であり、企業も積極的に力を尽くすことを求められています。社員各自ができることから、CO<sub>2</sub>排出抑制や省エネルギーに取り組んでいます。

データを収集し、問題点を抽出して、環境負荷の低減化に取り組んでいます

「ひとりひとりのエコアクト」を社員全員で実践します

東邦ホールディングスでは、環境問題を現代社会の緊急課題ととらえ、環境負荷低減化の取り組みを強化しています。大規模な製造施設を持たない当社は、製造業や大規模小売店と異なり、新型機械の導入や店舗改装によって省エネルギー化をはかることは困難です。TBCのような大型物流センター

にしても、稼働後に頻繁な設備の入れ替えを要する施設ではありません。また、多数の営業所についても、建て替えや設備入れ替えの機会はほとんどありません。

一方でわたしたちには、地域密着型という強みがあります。当社における省エネルギー活動の軸は、社員ひとりひとりが環境に対する問題意識を高め、身近なところから活動を積み重ねていくことです。省エネルギー化への意識を高め、社員への啓蒙活動などを通して環境保全活動に努めています。

東邦ホールディングスのマテリアルフロー(2017年度)



※1 CO<sub>2</sub>排出量の算定にあたっては、地球温暖化対策推進法に基づく排出係数を用いています











6 株主のために

# 企業としてさらに成長していけるように、 経営体制の強化に努めています

わたしたちは、株主や投資家のみなさまの期待と信頼に応える企業であり続けるために、コーポレート・ガバナンス体制とリスク管理体制の強化に取り組んでいます。健全な経営を続けていくためのさまざまな方策をご紹介します。

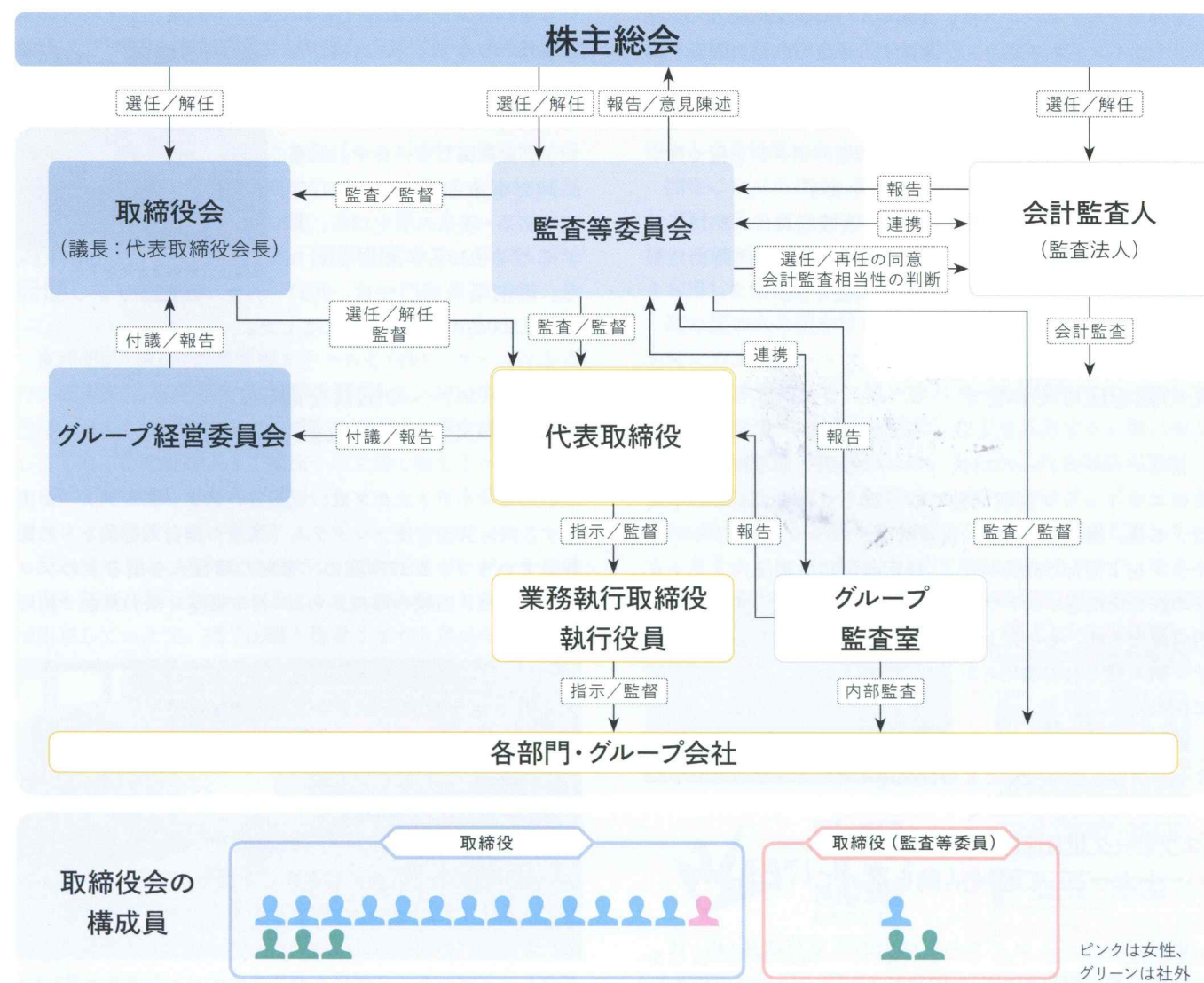
## さらなるコーポレート・ガバナンスの 充実に取り組んでいます

東邦ホールディングス(株)は、経営活動の透明性と健全性を維持し、意思決定の迅速化、経営責任の明確化、経営に関する監査や監督の強化をはかるため、コーポレート・ガバナンス(企業の経営を管理・統制する仕組み)の充実に取り組んでいます。

取締役会では、経営上の意思決定および業務執行の監督を行っています。機動的な経営体制を構築するため、ならびに責任や評価を明確にするため、取締役の任期は1年としています。監査等委員の取締役は2年です。

取締役は20名で構成されています(2018年6月)。女性取締役は1名。社外取締役は5名です。女性の視点からの意見を尊重し、さらに社外取締役を増やすことで業務執行に

東邦ホールディングス(株)の業務執行体制、経営監視体制および内部統制の関連図



監督や監視体制をいっそう強化するとともに、外部有識者の意見を経営に反映できるようにしています。

取締役会での意思決定をスムーズに進めるために、取締役会に提出される議案は、月に2回開催されるグループ経営委員会で事前に審議されます。グループ経営委員会は、東邦ホールディングス(株)、東邦薬品(株)およびファーマクラスター(株)の取締役・執行役員などで構成されています。

取締役会での意思決定プロセスについては、監査等委員である取締役3名(うち社外2名)が監査・監督し、議案内容の適法性を吟味するとともに、経営の透明性も確保しています。さらに、グループ監査室(グループ会社の監査を行う)や会計監査人(会計監査を行う)と定期的に情報共有や意見交換を行って、さらなる監査体制の強化に取り組んでいます。

なお、わたしたちもグループでは、東京証券取引所が2018年6月に改訂したコーポレート・ガバナンス・コードののりとしてコーポレート・ガバナンス報告書を作成し、東京証券取引所に提出するとともにホームページに掲載しています。

## 倫理綱領を全社員に配付し、 法令や社会規範を周知しています

東邦ホールディングスは、2011年に「共創未来グループ倫理綱領」を制定し、法令や社会規範を遵守し、企業としての社会的責任を果たすべく努めています。2017年には、調剤薬局事業や医薬品製造販売事業の拡大を考慮に入れた改定版を配付しました。

この倫理綱領は、グループスローガンや経営理念に基づき、全社員の業務活動における行動指針を定めたものです。また、医薬品医療機器等法、薬剤師法、独占禁止法、景品表示法とそれに基づく医療用医薬品卸売業公正競争規約などを遵守するためのポイントも解説しています。この倫理綱領を全社員(契約社員、派遣社員、アルバイト、パートタイマーを含む)に配付し、さらに各事業所に常備して業務委託先のスタッフにも周知を徹底しています。

## リスクを回避するために リスク管理委員会を設置しています

東邦ホールディングスは、「リスク管理基本規程」に基づき、コンプライアンス(法令の遵守と企業倫理の確立)を推

進するとともに、経営に重大な影響をおよぼすリスクを回避するため、「グループ・コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置しています。前述の「共創未来グループ倫理綱領」も同委員会において制定されました。実務現場のリスクを見逃さないために、委員会は当社グループの各部署の代表者16名で構成されています。さらに、テーマごとに数名のワーキングチームを設け、現場の声を反映させた実効性のあるリスク管理体制の構築をめざしています。

## 新入社員および中途入社社員に コンプライアンス研修を実施しています

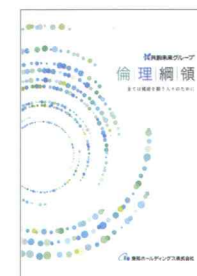
新入社員および中途入社社員にコンプライアンスの重要性を認識させるために、入社時の研修の必須項目として、コンプライアンス研修を実施しています。

## 適時・適切に情報を開示して IR活動に取り組んでいます

東邦ホールディングス(株)は、金融商品取引法などの関連法令や証券取引所規則を遵守し、公平かつ適時・適切に企業情報を開示するなど、IR活動(Investor Relations: 投資家向け広報)に積極的に取り組んでいます。第2四半期(中間)決算と本決算後には、決算発表とあわせて記者会見を行い、機関投資家・証券アナリストなどを対象にした決算説明会を実施しています。また、当社ウェブサイトにおいて決算説明会の資料を公開するほか、音声による配信サービスも行っています。少人数のsmallミーティングや個別ミーティングにも積極的に取り組んでいます。海外の機関投資家向けには、開示文書や決算説明会資料の英訳をウェブサイトに掲示するほか、経営トップが諸外国に赴いて機関投資家との対話を実施しています。2017年度は、アメリカで実施しました。

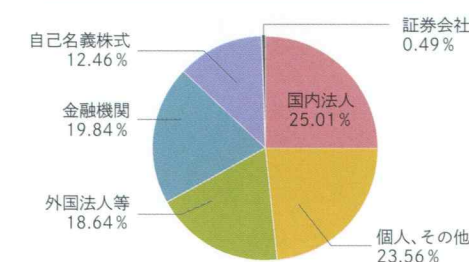
## 株を1単元以上保有する株主へ 株主優待品を贈呈しています

東邦ホールディングス(株)では、毎年3月31日(当社期末)最終の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を保有する株主へ、株主優待品を贈呈しています。



「共創未来グループ倫理綱領」

所有者別株主分布状況(2018年3月末)





全ては健康を願う人々のために

 共創未来

 東邦ホールディングス株式会社

本社 〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1 TEL.03-3419-7811(代表)

CSR報告書のお問い合わせ

丸の内オフィス(広報・IR室 CSR課)

〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー 13F TEL.03-6838-2830

<http://www.tohohd.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮し、FSC®認証紙を使用し、植物油のインキを使って「水なし印刷」で印刷しています。